

所信表明について

津山新星会議

代表質問者

米井知博



倉持

近藤

米井

吉田

竹内（邦）

質問 ↓六月の補正予算は約二十億円であるが、中期実施計画で採択されている事業はどう反映されているか。二十一年度会計の剰余金はいくら発生したのか。

答弁 ↓採択された事業は概ね計上できた。剰余金は約十億一千万円で七億円を財政調整基金に積み立てた。

質問 ↓地域懇談会は要望を聞く場になりがちだが、どのような方法でするのか。津山市版事業仕分けの着手スケジュール、手法、対象事業のくくりは。

答弁 ↓地域の公民館などへ出向き膝を交えた対話をし、施策を説明し意見を聞きたい。事業仕分けは十一月に市民評価委員会を発足し、平成二十三年一月に実施する。手法は公開で行い、対象事業は聖域を設けず選定する。

質問 ↓機構改革について、企画調整官の役割、権限は。政策調整室との関係は、各部一人で機能するのか。

答弁 ↓現場主義を実践するうえで各部局内での政策立案の中心的

な存在として、部内の調整役を担い、政策調整室と連携して、企画調整会議の運営を行う。専任が四人、兼務が五人の配置で機能すると考える。

質問 ↓国民健康保険会計の財政状況のここ数年の推移と未納状況、保険料率の他都市との比較について現状は。事業運営の健全化を図る観点から、保険料の値上げ、一般会計からの政策的繰り入れについての考えは。

答弁 ↓平成十八年度から四年連続の赤字で、平成二十一年度は二億二千万円の赤字。二十一年度の未収額は二億一千三百万円である。保険料は県内二十七市町村で二十二位と低い。一般会計からの政策的繰り入れはせざるを得ない。また、保険料の値上げにも理解をいただきたい。

質問 ↓クリーンセンターの建設は二十年來の懸案事業。様々な経緯を経て領家地区に決定し、一市四町で津山圏域資源循環施設組合が設立され、用地取得も完了し、平成二十六年度の稼働を

目指している。安全で将来的に不安のない施設の建設が必要。現在、検証中であるが、結果によっては領家地区から撤退もあり得るのか。

答弁 ↓組合で進めている領家地区の新クリーンセンター建設事業は津山ブロック五市町の最重要課題。早期完成に努める決意。

質問 ↓支所機能の充実について、現在、四支所と一出張所がある。充実とは機能のコンパクト化と考えるが、市長の考えはどうか。

答弁 ↓財政状況を踏まえ、効率化を図ることも重要だが、基本的な住民サービスの確保を念頭に住民の真に必要な支所のあり方について、現場の意見を聞きながら検討する。

質問 ↓教育長の所信は。

答弁 ↓対話と相互理解、心のかよいう信頼と責任の教育行政を基本的な信条とする。地域の方々の意見を聞き、抱える課題を的確にとらえ、開かれた学校、開かれた教育委員会づくりを進め、山積する課題解決に当たる。